

第47回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 平成24年11月30日(金) 13:00~14:43

場 所 神戸大学本部 大会議室

出席者 福田議長(学長)、天野委員、大橋委員、小林委員、佐藤委員、高崎委員、平野委員、
武田委員、田中委員、竹園委員、横野委員、中村委員、石田委員、正司委員、下林委員

(オブザーバー) 石村監事、松井監事、佐伯学長補佐

欠席者 井戸委員、斎藤委員、水越委員、矢田委員

議事要録について

第45回及び第46回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項 [委員からの主な意見等(○:意見・質問、→:回答)]

- 1 国立大学法人神戸大学の中期目標を達成するための計画(中期計画)の変更について
平成25年度概算要求の内示があるものとして、医学部医学科の入学定員増等に伴い、中期計画を変更することについて説明が行われ、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 2 国立大学法人神戸大学職員給与規程等の一部改正について
「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」の趣旨並びに国立大学法人の社会的立場及び責任に鑑み、同法の規定を参酌して職員等の給与等を臨時的に減額すること及び減額に対する特例措置について、国立大学法人神戸大学を取り巻く現下の情勢にかんがみ、平成24年12月1日以降の減額対象者及び減額率を改めるため、国立大学法人神戸大学職員給与規程等を一部改正することについて説明が行われ、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 3 平成24年度学内補正予算について
平成24年度学内補正予算(案)について説明が行われ、審議の結果、原案のとおり承認した。

報告事項 [委員からの主な意見等(○:意見・質問、→:回答)]

- 1 国立大学法人神戸大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果について
本学の「平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果」、「国立大学法人等の評価結果について」、「国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況」及び「東日本大震災からの復旧・復興等に向けた国立大学法人等の取組」について報告があった。
- 「研究費の不適切な経理」は国立大学法人の評価にどのような影響があるのか。
→ これまでも国立大学では度々研究費の不適切な経理が発覚し、その都度、適正使用のための取組を求められているが依然として問題が解決されていないこと、また、国立大学は科学研究費助成事業など多額の研究費助成を受けており、この問題は大学の今後の在り方に影響すること、これらを踏まえて、国立大学法人評価委員会では、不適切な経理が発覚した法人については、その時期や不正防止の取組の如何を問わず判明した段階で課題として指摘し、従来に比較して一段階厳しい評定が行われるとともに、中期目標期間評価においても、その後の取組も含めて総合的な評価が行われることとなった。
- 国立大学法人の評価では、特色ある教育・研究に関する取組が重要と思われる。
平成23年度は「神戸大学EU総合学術センター」と「震災復興支援」に関する事業が評価されているが、今年度事業の評価はどのような見通しか。
→ EU関係、グローバル人材教育、統合研究拠点の体制整備及び国立大学の機能強化への取組など様々な事業を進めているが、これからまとめる評価においては、どのような成果が上がったかという観点での記載が必要となる。特色のある事業を整理しアピールしていきたいと考えており、今年度の評価でも経営協議会学外委員のご指導をいただきたい。

- 具体的な数字であるとか目に見える形での結果を残していかなければ、新たな予算獲得や外部資金の増加につながらない。法人評価においては優れた取組をエビデンスに残す努力を続けていただきたい。
 - 2 平成23事業年度全国立大学財務諸表について
平成23事業年度に係る全国立大学財務諸表の分析結果について報告があった。
 - 外部資金の獲得状況について報告があったが、例えば原子力事故や放射能汚染等に関連する事業などで、担い手が不足して進んでいないプロジェクトもあるように聞いている。これらの分野に対する大学のスタンスとの兼ね合いもあるが、情報を集めることを検討してはどうか。
 - 3 平成24年度医学部附属病院上半期決算について
平成24年度医学部附属病院上半期決算について報告があった。
 - 5億円の上半期利益は、先ほどの「全国立大学財務諸表」の箇所で説明のあった修正損益に置き直すとどれ位の額になるのか。
 - 資金収支が当初の予定より3億円程度下回っているので、修正損益も上半期利益から同額を控除した程度の額になっていると思われる。その要因としては収益の増加に伴い運転資金が増加していること、及び収益計上されているものの実際には資金回収が出来ていないことによると思われるが、年度末までには適切に処理できると考えている。特に資金収支では保険請求から実際の入金に2ヶ月程度かかるが、上半期には今年2月分の入金が含まれ、2月は日数も少ないので通常月より資金収入が落ちる傾向にある。このことも上半期の資金収支に影響している。
 - 説明の中で、外来における院内紹介の実施、複数科の受診効率化という話があったが、これまで実現できなかった要因は何か。
 - 各診療科とも大変多くの外来患者を抱える中で、急な院内紹介にはこれまで対応できていない面があったが、医師の配置など外来診療体制の見直し、電子カルテの改良及びカルテ入力業務を補助するクラウドの導入により、他診療科の患者情報をリアルタイムに把握し緊急性の高い患者への対応が出来るようになった。
- ◎ 今回は、平成25年1月25日に開催予定。